

キウイフルーツかいよう病 (Psa3) の病徴モニタリング I

秋から休眠期

かいよう病の拡散や被害を防ぐには、早期に発病を確認し、処置をすることが必要となる。
気温が低下して病原菌の動きが活発になるので、園地のこまめなモニタリングに努めることが大切である。
疑わしい症状を確認した時は、テープなどでマーキングするよう心掛ける。

時期	モニタリングする症状	備考
秋	葉の褐色斑点 枝の枯死、 枝からの樹液の流出	○葉ではPsa3以外による多様な褐変症状が見られる。
冬 (休眠期)	枝からの樹液の流出	○2月頃から剪定の切り口、枝の棚面への結束部、接ぎ木部などから見られることが多い。

